

小水力

小水力発電の事業化プロセスを加速させます！

小水力発電の魅力

地域の自然を活かしたクリーンエネルギー

- 小水力発電は、昼夜を問わず発電可能で効率が良く、発電時に二酸化炭素や大気汚染物質を排出しないクリーンエネルギーです。一方、水量や落差など地形に左右され、水利権の取得が必要となるなどの課題があります。
- 2012年7月に始まった再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度（FIT）。開始3年間はプレミアム価格が適用され、出力200kW未満の小水力発電なら調達価格35.7円/kWh、調達期間20年です。今はじめれば最も高い単価で売電でき、事業化に有利です。
- わたくしたちは、山紫水明のこの国に適した小水力発電の事業化を加速させるソリューションを、みなさまのニーズに即して提供してまいります。どうぞお声掛けください。



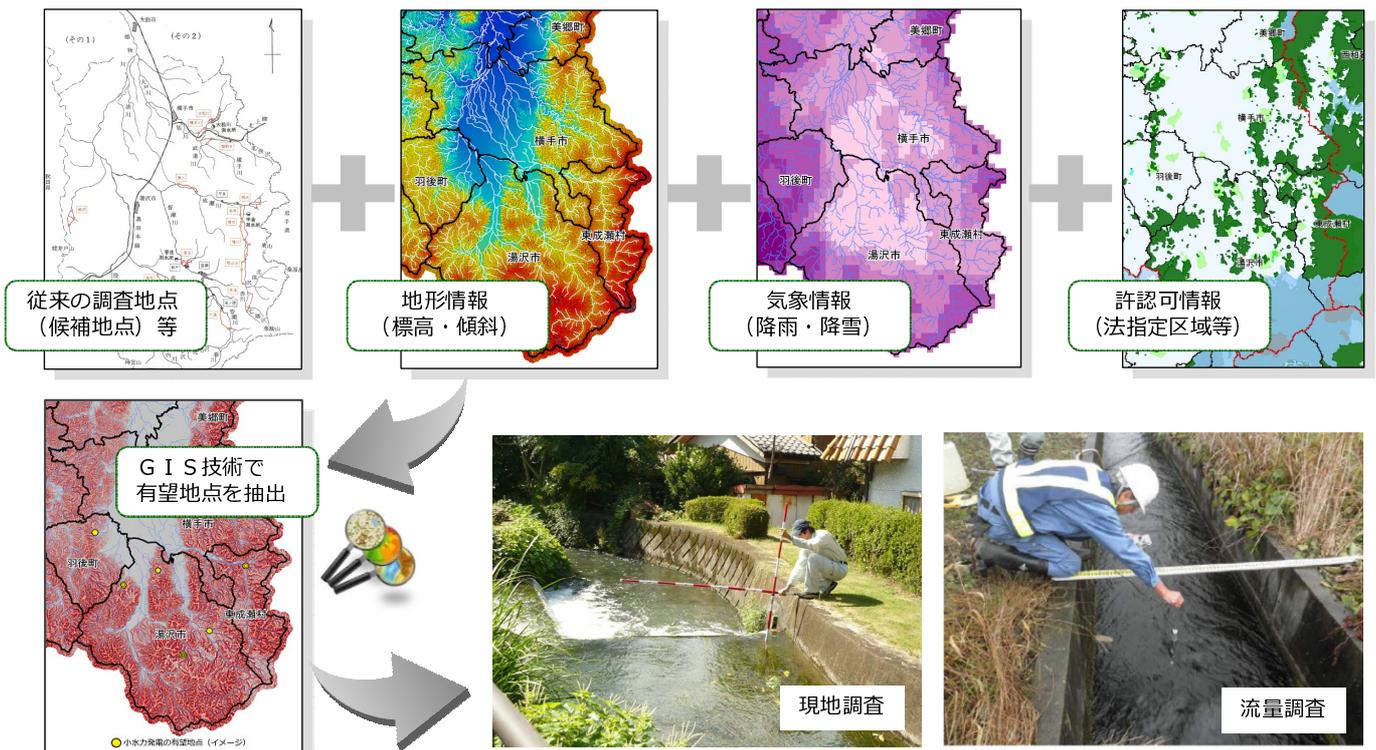
木製の下掛け水車（秋田県）

どこでならば…

GIS技術を駆使して有望な小水力発電候補地を抽出

たとえば、小水力発電の**適地選定**。わたくしたちが長年培ってきた地理空間情報の調査・計測・解析技術が活かされます。経済産業省や環境省が実施した調査成果をもとに、「法指定区域」等の許認可関連情報や「降雨・降雪」等の水文気象情報をGISで重ね合わせ、小水力発電の適地をスクリーニングします。これにより、漏れなく、均質に、すぐれた候補地の現地調査ができ、的確な答えを速やかにご提供することができます。

全国的な水力発電調査	調査年度	調査機関	調査内容
水力開発地点計画策定調査 (第5次発電水力調査)	S.55~S.61	経済産業省	地形図をもとに取水地点や発電箇所を選定し、現地確認を踏まえた上で立地条件に照らした発電計画を調査。
中小水力開発促進指導事業基礎調査 (未利用落差発電包蔵水力調査)	H.11~H.20	経済産業省	既設構造物（ダム、水路）の未利用落差に着目して、文献またはアンケート調査により小水力ポテンシャルを把握。
再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査	H.22	環境省	河川水路や農業水路等の地理空間データを用いて「仮想発電所」を設定し、GIS処理で発電量を推計。



小水力

事業実施に向けた流れ

アジア航測が事業化に向けてサポートできること

小水力発電を導入するためには、おおむね下記の手順が必要になります



主な実績

- ・平成22年度 「緑の分権改革」推進事業（県実施分）に係る調査業務(秋田県生活環境部)
- ・平成22年度 前橋市「緑の分権改革推進事業（小水力発電）」調査等業務（群馬県前橋市）
- ・平成22年度 神山町小水力資源活用実証調査業務（徳島県神山町）
- ・平成23年度 熊本地域小水力・太陽光発電導入モデル事業第1号業務（熊本県農林水産部）
- ・平成24年度 加美町小水力発電可能性調査業務（宮城県加美町）
- ・平成24年度 内川地区（せせらぎ）-201号小水力発電施設概略設計業務（宮城県農林水産部）
- ・平成24年度 小水力等農村地域資源利活用促進事業 小水力発電案件形成支援業務 宮崎地区（KS土地改良区）

お問い合わせ先